

長崎大学 川内村・富岡町復興推進拠点における放射線健康リスクコミュニケーション活動の取り組み



長崎大学・川内村復興推進拠点

2013.4.20 包括連携協定の締結
川内村役場での活動開始

長崎大学・富岡町復興推進拠点

2016.9.30 包括連携協定の締結
2017.4.4 富岡町役場での活動開始



図、2013年;
包括連携協定式の様子



図、2016年;
包括連携協定式の様子

【主な連携内容】

- ◆環境放射能評価や個人被ばく線量の測定を通じた、外部被ばく線量の評価。
- ◆食品等の放射性物質測定を通じた、内部被ばく線量の評価。
- ◆線量評価を基にした健康相談や講演活動等を通じた、住民の健康管理、安全・安心の担保等。

【住民の方と放射線と健康に関する車座集会】

□富岡町では、富岡町役場と連携して、定期的に放射線と健康に関する車座集会（交流集会）を開催しています。

【よく聞かれる質問】

- 乾燥後の食品の値と、生の状態の食品の値が違うことが疑問である。(干し柿、干しいたけなど)
- 国の食品中放射性物質濃度の基準値が500ベクレルから100ベクレルに下がったのが疑問である。



図、車座集会の様子



図、2019年;
長崎大学・富岡町復興推進拠
点が入る富岡町食品検査場

富岡町におけるイノシシ中の放射性物質濃度調査

□富岡町では全住民の避難によって、鳥獣の生息域が拡大してきたと考えられている。農作物や森林への直接的な被害だけでなく、住民の帰還意向の後退や帰還した住民の生産意欲の後退への影響も懸念されている。

□そこで、本調査は捕獲されたイノシシ中の放射性物質濃度を測定することによって、イノシシの行動生態学的特徴と放射性セシウム濃度との関連やイノシシを摂取した場合の内部被ばく線量などを明らかにすることを目標とする。

□得られた結果を住民の皆さんや行政の皆さんと共有して、イノシシの被害管理・利活用を検討する検討会を開催する予定である。

活動内容の流れ

